# ● 授業科目の 内容紹介

国語国文専攻

攻

 $\prod$ 

V

日本文学論	4		国	1	尾崎富義
授 業 科 目 名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担当教員

#### I 主題

日本文学の研究における民俗学的研究方法の可能性と理解を主題とする。

## Ⅱ 授業の到達目標

- 1.折口学の理解をとおして、古代文学がいかに発生したかについて考える糸口となる。
- 2.折口学について学び、文学研究の民俗学的研究方法の可能性について考察できる。
- 3.日本民俗学の知識を利用して、見過ごしがちな日常生活上の信仰や習慣の理解に応用できる。

#### Ⅲ 授業の概要

主として演習を中心にしながら講義で補足説明をする。

# Ⅳ 授業計画と内容

項目

1~2 「折口学」の解題

3~5 「妣が国へ・常世へ」(常世論1)

6~10 「古代生活の研究」(常世論2)

11~15 「若水の話」

16~20「最古日本の女性生活の根柢」

21~26「水の女」

27~30「餓鬼阿弥蘇生譚」

#### 内 容

- ・折口学の特徴、文学の民俗学的方法について
- ・常世観の成立、異郷意識の展開とマレビト。
- ・常世の意義、祖先神の来訪、根の国の観念。
- ・日本古代の霊魂観、沖縄の若返りの水、若水を汲む民俗。
- ・神を祀る女、名と結婚の民俗。忌籠りの民俗。
- ・聖水を司る女、ウブユとミソギの意義、タナバタツメと天の 羽衣。
- ・ヨミガエリの信仰、小栗判官と照手姫、説経節と浄瑠璃と。

# Ⅴ 使用テキスト・教材等

『古代研究』I (中公クラシックス)

## VI 参考書·参考資料

折口信夫事典 西村亨編 大修館書店

#### Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100		60	20	20	
折口用語の理解		0	0	0	
折口学説の理解		0	0	0	
日本古代の信仰と呪術		0	0	0	
文学の民俗学的方法		0	0	0	
沖縄地方の民俗		0	0	0	

## Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

各自、事前にテキストを十分に読んでおくこと。『折口信夫事典』等を参考に、折口用語の意味、担当部分の 要約等をプリント資料として発表する。

## 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

授業に関係のない私語は慎むこと。

攻

 $\prod$ 

保

攻

目

国語表現論	2		国	1	中村国男
授業科目名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員

#### I 主題

現代における日本語表現の優れた代表的な作家として遠藤周作の随想や小説を鑑賞し、その奥深い魅力を理解する。遠藤周作の作家としてのテーマを一言で言えば「無償の愛の追求」と言えるが、その表現のされ方は、純文学、大衆文学、ユーモラスなエッセイなど、多彩である。それを学ぶことによって、おびただしい種類の器のような豊かな国語表現の世界が確認できる。

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.作品を読んで作家の問題認識に興味関心を持つことができる。
- 2.発表する新聞雑誌や、想定される読者に応じた作家の工夫が理解できる。
- 3.国語表現の多様さに関する自分の見解を表現できる。

## Ⅲ 授業の概要

最初から7回まではプリント資料を用いて随想や初期の芥川賞受賞作品の学習をする。8回目からは購入したテキストを用いて学習するので、各自でテキストを読破しておくこと。その際、小説の構成・設定の観点を考えて読むこと。

## Ⅳ 授業計画と内容

項目内容

1. 軽妙な随想 狐狸庵シリーズから、まずは「古今百馬鹿」で入門

4. 「白い人」1 1章

 5. 「白い人」2
 2章・3章・4章

 6. 「白い人」3
 5章・6章・7章

 7. 「白い人」4
 8章・9章

8. 「私が・棄てた・女」1 1章 9. 「私が・棄てた・女」2 2章・3章

 10. 「私が・棄てた・女」3
 4章・5章

11. 「私が・棄てた・女」4 6章・7章 12. 「私が・棄てた・女」5 8章・9章 13. 「私が・棄てた・女」6 10章・11章

14. 「私が・棄てた・女」7 12章

15. まとめ

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

私が・棄てた・女 遠藤周作 講談社文庫

上記以外はプリントを使用する

## VI 参考書·参考資料

授業中に適宜指示する。また、自身で探し出す努力を期待する。

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100	40	30		30	
作家への興味関心	0	0		0	
作家の工夫への理解	0	0			
自己の意見の表現	0	0			

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

初回に指示した作品をできるだけ早く読破しておくこと。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

自分の意見を積極的に言えるようにすること。

攻

V

国文学演習 I		(2)	国	1	尾崎富義
授業科目名	必修	選択	学科	年次	担当教員
	単 位 数				

#### I 主題

『万葉集』一巻を読む。ウタとは何か。古代和歌の表現様式、万葉のことばの意味などを学ぶことによって、『万葉集』の理解を深めることを主題とする。

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.『万葉集』を読むことによって、ウタとは何か、古代和歌の表現様式について理解することができる。
- 2.万葉の歌を理解することによって、奈良時代の人々の生活や信仰まで考察できるようになる。
- 3.和歌の知識を利用して、平安朝の勅撰和歌集など国文学史の学習に応用できる。

#### Ⅲ 授業の概要

演習形式で行う。

# Ⅳ 授業計画と内容

項 目 1~4. 『万葉集』の解題

月 内 容

『万葉集』の成立・名義・時代区分・編者等 『万葉集』に関する基礎的知識を学習する。

5~9. 「近江荒都歌」 10~12. 「吉野讃歌」 13~15. 「伊勢行幸歌」 16~18. 「阿騎野遊猟歌」 19~22. 藤原の宮関係歌」 近江大津宮と壬申の乱、荒都をうたう意味、人麻呂歌の特徴。 吉野の歴史と信仰、持統天皇の吉野行幸、山川対比の讃歌。 伊勢神宮の祭祀と伊勢行幸の背景、留守歌の系譜。

阿騎野の風土、王権と狩猟、コモリの古代的意義。 藤原宮の造営と遷都の歴史的背景、宮都讃歌の特徴。 紀伊国行幸の意味、歌枕について。 「引馬野」はどこか、高市黒人の歌の特徴。 羈旅歌について、長皇子の歌の特徴。

遣唐使の歴史、遣唐使歌の特徴。

23~24.「紀伊国行幸関係歌」

25. 「参河国行幸歌」 26~28.「長皇子の歌」

29~30. 「遣唐使関係歌」

## ▼ 使用テキスト・教材等

 『万葉集 全注釈』ー(講談社文庫)
 中西進
 講談社

 『万葉集を知る事典』
 桜井満監修
 東京堂

# Ⅵ 参考書・参考資料

「IX その他」参照

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100		60	20	20	
万葉集に関する基礎知識		0	0	0	
万葉時代の歴史と社会		0	0	0	
相聞歌の表現と様式に関する理解		0	0	0	
万葉の歌ことばの理解		0	0	0	
柿本人麻呂作品の理解		0	0	0	

## Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

レポーターは、事前に必ず発表資料を配布する。学生は当日の授業で行うテキスト範囲と発表資料に必ず目を通し、不明の点については、以下に示す参考文献に当たり学習をしておくこと。

- ・『万葉集注釈』(沢瀉久孝)・『万葉集全注二』(稲岡耕二)・『万葉集釈注』(伊藤博)・『万葉集私注』(土屋文明)などの註釈類、『万葉集索引』(塙書房)などの索引類、その他辞書類。
- ・授業に関係のない私語は慎むこと。

攻

П

保

授業科目名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員
言語学演習		(2)	国	1	澤崎宏一

#### I 主題

この授業では、日本語と他の言語との関係を学ぶ。また、日常生活ではあまり意識することのない日本語のしく みについても学習する。

#### Ⅱ 授業の到達日標

- 1.1. 世界の言語と日本語がどのような関係にあるかがわかるようになる。
- 2.2. 日本語の文法やしくみについて、問題点を把握できるようになる。
- 3.3. 日本語を含めたことばのしくみについて、ある程度客観的な見方ができるようになる。

#### Ⅲ 授業の概要

講義形式ではなく対話型の授業である。様々な資料から、日本語の姿を見つめることを目指す。

## Ⅳ 授業計画と内容

項目 内 容 授業ガイダンス マクロ・ミクロ的視点についての話 1. 語族の視点から見た日本語の系統 2-5.日本語と世界の言語 日本の中の言語 アイヌ語や日本語の方言について 6-8. 9-10. 日本と世界の文字 漢字文化圏の文字の発達と非漢字文字 ローマ字化運動、当用・常用漢字など 11-12. 日本の言語政策 13-15. 世界の日本語教育 日本語教育の諸問題や第二言語習得論 日本語の母音と子音の特徴、連濁 16-18. 日本語の母音と子音

モーラ、音節、アクセントなど 19-21. 日本語の韻律

22-23. 日本語の動詞の種類 ル動詞・ウ動詞、自他動詞

24-26. 日本語の様々な構文 受け身文、使役文、受益構文など

27-28. 日本語の主語と主題 「は」と「が」と「の」の話

29-30. 日本語の敬意表現 敬語の種類と使い方、ら抜き言葉など

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

ハンドアウト、視聴覚教材を必要に応じて使用する

#### Ⅵ 参考書・参考資料

庵功雄・日高水穂・前田直子・山田俊弘・大和シゲミ くろしお出版 やさしい日本語のしくみ 2003

#### Ⅵ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他	
学習項目		レポート	믑		( )	
配点比率(%) 合計 100%	25	25		50		
約2単元に1度の確認テスト		0		0		
日本語の系統やしくみの総合理解	0			0		

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

年間6回前後、それまでの授業の確認テストを行うので、学習事項の復習を欠かさないこと。 予習事項が指定されている場合は、授業中に配られるハンドアウトに目を通しておくこと。 参考書は、購入してもしなくても構わない。読んでおくと、授業理解の助けになる。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

授業を聞くだけでなく、教師からの問いかけに対して積極的に発言することが望まれる。

攻

 $\prod$ 

目

言語情報演習		(2)	国	1	岡墻裕剛
授 業 科 目 名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員

## I 主題

情報という観点から言語を分析し、言語がもつ情報伝達のためのツールとしての機能について理解を深めるとともに、より効率的にその情報を抽出するための情報処理技術の獲得を目指す。

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.言語と情報との関連性を客観的に説明できる。
- 2.言語情報を扱うために必要となる基礎的な情報処理能力を身に付ける。
- 3.テキストデータベースを構築し、必要な情報を整理・抽出できる。

#### Ⅲ 授業の概要

言語情報に関する知識についての講義と、PC を用いてデータベースの構築を行うといった情報処理的な演習の両方で授業を展開する。

# Ⅳ 授業計画と内容

項目

内 容

1. 前期ガイダンス

2-5. 言語と情報 言語と情報の関連について学ぶ 6-8. 会話の分析 各自で収録した会話のテキスト化 9-11. 情報処理 PC を用いた分析方法を学ぶ 12-14. 実践 会話データベースの構築

15. 前期まとめ

16. 後期ガイダンス

17-19. 文字と情報 文字と情報の関連について学ぶ 20-22. デジタルデータの多様性 各種のデータの特徴を知る

23-25. 文献処理実際の文献情報をデータ化する26-29. 課題各自によるデータベースの構築

30. 授業のまとめ

## Ⅴ 使用テキスト・教材等

なし。適宜データを配布する。

#### Ⅵ 参考書・参考資料

授業内で適宜指示する。

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100		30	30	40	
言語情報学の基礎知識の理解		0		0	
情報処理能力の獲得		0	0	0	
データベースの完成度			0		
授業への参加度・貢献度		0	0	0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

課題を多く出すが, 次の時間までに仕上げて提出すること。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

PC を用いた授業なので各自で記録媒体を用意すること。 授業開始から 20 分経過した後に入室した場合,欠席扱いとする。

攻

 $\prod$ 

П

保

目

授業科目名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担当教員
国文学講読I		4	国	1	瀬戸宏太

#### I 主題

源氏物語と現代。源氏物語の普遍的な魅力に思いを致していくことを目標とする。

## Ⅱ 授業の到達目標

- 1.作品世界に問題意識を持って向かい合うことができる。(文学への関心の深化)
- 2.文学研究の課題として HTML や CSS を理解できる。(文学研究の方法に習熟)
- 3.積極的に議論を繰り返して、サイトの作成・運営ができる。(コミュニケーション力)

#### Ⅲ 授業の概要

インターネットを介して源氏物語に関する情報を公開する Web サイトを運営していく。外部に向けて責任を持った情報公開を試みるのだから、リアルタイムで新たな知識技能を身につけ、様々な状況に対応していくことが求められる。

## Ⅳ 授業計画と内容

講義科目ではあるが、演習的な要素も取り込んだ授業となる。 講義は作業に平行して随時行い、以下のような内容を扱う。

(作業状況により、順番は前後する可能性がある)

項目

内 容

1-2. HTML の書き方 文章の構造化と主要な要素・属性。 3-4. リンクのマナー サイト運営をめぐるネチケットについて。 5-6. サイトのデザイン スタイルシートの考え方と導入法。 7-15. 源氏物語の人間関係 源氏物語の全体像の再確認。 源氏物語研究の諸問題 源氏物語の解釈をめぐる引たの水準。 17-18. 源氏物語開発サイトの傾向 人気のサイトと消えたサイトの対比から。

19-25. ネットの内外の源氏物語 源氏ブームを支える様々なアプローチ。 26-28. 個人情報の扱い ネットをめぐる危険回避のための最低条件。

29-30. 源氏物語と現代 まとめ。レポート提出に向けて

## Ⅴ 使用テキスト・教材等

源氏物語

他に HTML ファイルで資料を配布する。

#### Ⅵ 参考書・参考資料

新編日本古典文学全集 新日本古典文学大系 新潮日本古典文学集成 小学館 岩波書店

角川ソフィア文庫

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

T 1204261 IM 62 17	AACET					
	成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目			レポート	品		( )
配点比率(%) 合計	† 100		30	40	30	
文学への関心の深ん	Ł		0	0	0	
文学研究の方法に習	<b></b>		0	0		
コミュニケーションカ				0	0	

## Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

授業と平行してで構わないので、一年間のうちに源氏物語を通読することを期待する。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

Web サイトの構築にあたり、ブログや簡易な作品発表サイトは利用しないことを前提とする。また、動的なサイトを創るためであっても、Flash は原則として採用しない。あくまでも標準的な技術を土台とするので、各自のインターネットスキルがどれほど高いものであっても、それを活かせるとは限らないことは、あらかじめ了承しておいてもらいたい。

教

職

に

関

す

音
楽
療
法
土
に
美
9
(A)
呂

国文学講読Ⅱ		4	围	1	大川信子
授 業 科 目 名	単位 必修	選択	学科	年次	担当教員

## I 主題

古典文学とは、時代を経ても常に新たな問いかけを読者に投げかける力を持つものである。この授業では平 家物語を取り上げ、の問いかけがなんであるのか。それをどのように私たちは受け止めるのかを考え、古典文 学と私たちとの関わりを探る。

## Ⅱ 授業の到達目標

- 1.物語を部分と全体の両面から読解することができるようになる。
- 2.古典文学の楽しみ方を学ぶ~古典の音読・暗唱ができる、変体仮名が読めるようになる
- 3. 史実と物語の関わりを通して、物語とは何かを考える力を身につける。

#### Ⅲ 授業の概要

文学の発生は、個別の事情を持つ。平家物語の成立の一端を『徒然草』に読み取り、語りの性格について考 察する。様々な展開を見せる平家物語諸本のなかからもっとも流布した覚一本系統のテキストを選び、日本人に とって共通の古典であった平家物語を読解していく。冒頭「祇園精舎」章段で提示されたテーマが、個々の話群 にどのように具現化していくのかを読み取る。また、物語の享受の一形態としての能楽において、平家物語がど のように取り込まれていくのか、一つの話柄が、時代とともにどのような変容を遂げていくかも併せて追う。

## Ⅳ 授業計画と内容

項 目 · 内

- 1. 『徒然草』にみる平家物語の成立
- 2. 平家物語成立 一様々な視点より 一
- 3. 琵琶法師について
- 4. 「祇園精舎」の章段
- 5. 「殿上の闇討の事」の章段の写本の翻字の実際
- 6. 「殿上の闇計の事」の章段を写本で読む
- 7. 「殿上の闇討ち」の章段に、平家降盛の因を読む
- 8. 「殿下の乗合の事」の章段
- 9. 史実と物語との関わりを考える―「殿下の乗合の事」
- 10. 「鹿の谷の事」- 内容読解
- 11.「鹿の谷の事」-物語の部分と全体を考える-
- 12. 藤原成親の選択を考える―物語の主題との関わり―
- 13. 藤原実定の選択を考える一厳島神社の意義―
- 14. 平家と厳島―「大塔建立の事」
- 15. 前期まとめ 後期試験

角川ソフィア文庫

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

平家物語 上

佐藤謙三校注

なお、授業の進捗状況に合わせて6回、内容理解にかかわるレポートを課す

#### Ⅵ 参考書・参考資料

平家物語全注釈

富倉徳次郎

角川書店

16. 鬼界が島の流人たち

19. 能「俊寛」の世界

22. 清盛と後白河院

25. 能「頼政」の世界

26. 能「頼政」を考える

27. 頼朝と文覚の物語 I

28. 頼朝と文覚の物語Ⅱ

29. 入道浙夫の童段

20. 重盛の死

21. 清盛の悪行

18. 俊寛の物語―「足摺の事」

17. 平康頼の物語ー「卒塔婆流しの事」

23. 源頼政の物語 I - その挙兵に至る物語-

30. 「経の島の事」「,祗園女御の事」 まとめ

24. 源頼政の物語Ⅱー「宇治川の事」を中心に-

新編日本古典文学全集 平家物語

小学館

## WI 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小レポート	音読•暗唱成	翻字作業	その他
学習項目			果発表·作品		( )
配点比率(%) 合計 100	50	30	10	10	
物語の主題・構造を理解できる	0	0			
音読と写本翻刻の実践			0	0	
物語読解の応用	0	0			

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

授業時に扱う章段の事前の読み

# 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

履修上の注意: 欠席・遅刻・懈怠は、成績の漸減を生じるので注意すること。

П

保

攻

 $\prod$ 

授 業 科 目 名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員
国語学講読		4	国	1	久島茂

## I 主題

日本語の基礎的な知識を身につける。

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.音声の基礎と歴史を理解する。
- 2.文法の主要項目を理解する。
- 3.語の意味の理解を深める。

#### Ⅲ 授業の概要

音声については基礎的事項と歴史的変遷を概説する。文法は、現代語の分析、古典との違いを取り上げる。 語の意味については、問題の発見方法と体系の考え方を述べる。

# Ⅳ 授業計画と内容

<ul> <li>1 音声器官とは</li></ul>		項 目	内 容
3       音韻とは       音声と音韻の違い         4       表記       音韻と表記のずれ         5       あめつちの詞、いろは歌       時代的な違い         6       五音(五十音)       成立事情と用途         7       源氏物語、方丈記の原音読み       当時の具体的な音声を知る         8、9       奈良時代の音声       研究と成果         10、11       室町末期の音声       研究と成果         12       ボイス       体系として考える         13、14       アスペクト、テンス       研究と成果         15       助詞の歴史的変遷       「が」「の」の用法         16       係り結び       崩壊の理由         17       活用形式の変遷       変化した理由         18       固有名詞、指示語       意味とは何か         19       上位語、下位語       自然分類と人為分類         20       反義語       「零い」「寒い」は反義語か         21       多義語       意味の多様性         22       シソーラス       語の分類の可能性         23       意味変化の型       変化の方向性         24       日常語の意味       日付と日数の違い         25       色彩語彙       語彙の序列性         26       温度語彙       「涼しい」「ぬるい」の分析         27、28       空間の語彙       「高い」と「広い」	1	音声器官とは	人間はなぜ言語音を作れるのか
4       表記       音韻と表記のずれ         5       あめつちの詞、いろは歌       時代的な違い         6       五音(五十音)       成立事情と用途         7       源氏物語、方丈記の原音読み       当時の具体的な音声を知る         8、9       奈良時代の音声       研究と成果         10、11       室町末期の音声       研究と成果         12       ボイス       体系として考える         13、14       アスペクト、テンス       研究と成果         15       助詞の歴史的変遷       「が」「の」の用法         16       係り結び       崩壊の理由         17       活用形式の変遷       変化した理由         18       固有名詞、指示語       意味とは何か         19       上位語、下位語       自然分類と人為分類         20       反義語       「零い」「寒い」は反義語か         21       多義語       意味の多様性         22       シソーラス       語の分類の可能性         23       意味変化の型       変化の方向性         24       日常語の意味       日付と日数の違い         25       色彩語彙       語彙の序列性         26       温度語彙       「涼しい」「ぬるい」の分析         27、28       空間の語彙       「高い」と「広い」	2	音声の分類と記号	音声の表記を学ぶ
5       あめつちの詞、いろは歌       時代的な違い         6       五音(五十音)       成立事情と用途         7       源氏物語、方丈記の原音読み       当時の具体的な音声を知る         8、9       奈良時代の音声       研究と成果         10、11       室町末期の音声       研究と成果         12       ボイス       体系として考える         13、14       アスペクト、テンス       研究と成果         15       助詞の歴史的変遷       「が」「の」の用法         16       係り結び       崩壊の理由         17       活用形式の変遷       変化した理由         18       固有名詞、指示語       意味とは何か         19       上位語、下位語       自然分類と人為分類         20       反義語       「零い」「寒い」は反義語か         21       多義語       意味の多様性         22       シソーラス       語の分類の可能性         23       意味変化の型       変化の方向性         24       日常語の意味       日付と日数の違い         25       色彩語彙       語彙の序列性         26       温度語彙       「涼しい」「ぬるい」の分析         27、28       空間の語彙       「高い」と「広い」	3	音韻とは	音声と音韻の違い
<ul> <li>石音(五十音)</li> <li>成立事情と用途</li> <li>源氏物語、方丈記の原音読み</li> <li>当時の具体的な音声を知る</li> <li>8、9 奈良時代の音声</li> <li>研究と成果</li> <li>10、11 室町末期の音声</li> <li>研究と成果</li> <li>12 ボイス</li> <li>体系として考える</li> <li>13、14 アスペクト、テンス</li> <li>研究と成果</li> <li>15 助詞の歴史的変遷</li> <li>「が」「の」の用法</li> <li>16 係り結び</li> <li>崩壊の理由</li> <li>17 活用形式の変遷</li> <li>20 区義語</li> <li>20 反義語</li> <li>20 反義語</li> <li>21 多義語</li> <li>意味の多様性</li> <li>22 シソーラス</li> <li>語の分類の可能性</li> <li>23 意味変化の型</li> <li>変化の方向性</li> <li>24 日常語の意味</li> <li>日付と日数の違い</li> <li>25 色彩語彙</li> <li>福度語彙</li> <li>「涼しい」「ぬるい」の分析</li> <li>「高い」と「広い」</li> </ul>	4	表記	音韻と表記のずれ
7 源氏物語、方丈記の原音読み 当時の具体的な音声を知る 8、9 奈良時代の音声 研究と成果 10、11 室町末期の音声 研究と成果 12 ボイス 体系として考える 13、14 アスペクト、テンス 研究と成果 15 助詞の歴史的変遷 「が」「の」の用法 崩壊の理由 17 活用形式の変遷 変化した理由 18 固有名詞、指示語 意味とは何か 自然分類と人為分類 19 上位語、下位語 自然分類と人為分類 20 反義語 「暑い」「寒い」は反義語か 21 多義語 意味の多様性 22 シソーラス 語の分類の可能性 23 意味変化の型 変化の方向性 1 中常語の意味 日付と日数の違い 15 色彩語彙	5	あめつちの詞、いろは歌	時代的な違い
8、9 奈良時代の音声 研究と成果 10、11 室町末期の音声 研究と成果 12 ボイス 体系として考える 13、14 アスペクト、テンス 研究と成果 15 助詞の歴史的変遷 「が」「の」の用法 16 係り結び 崩壊の理由 17 活用形式の変遷 変化した理由 18 固有名詞、指示語 意味とは何か 19 上位語、下位語 自然分類と人為分類 20 反義語 「暑い」「寒い」は反義語か 21 多義語 意味の多様性 22 シソーラス 語の分類の可能性 23 意味変化の型 変化の方向性 24 日常語の意味 日付と日数の違い 25 色彩語彙 語彙の序列性 26 温度語彙 「涼しい」「ぬるい」の分析 27、28 空間の語彙 「高い」と「広い」	6	五音(五十音)	成立事情と用途
10、11 室町末期の音声 研究と成果   12 ボイス	7	源氏物語、方丈記の原音読み	当時の具体的な音声を知る
12 ボイス 体系として考える 13,14 アスペクト、テンス 研究と成果 15 助詞の歴史的変遷 「が」「の」の用法 16 係り結び 崩壊の理由 17 活用形式の変遷 変化した理由 18 固有名詞、指示語 意味とは何か 19 上位語、下位語 自然分類と人為分類 20 反義語 「暑い」「寒い」は反義語か 21 多義語 意味の多様性 22 シソーラス 語の分類の可能性 23 意味変化の型 変化の方向性 24 日常語の意味 日付と日数の違い 25 色彩語彙 語彙の序列性 26 温度語彙 「涼しい」「ぬるい」の分析 27、28 空間の語彙 「高い」と「広い」	8,9	奈良時代の音声	研究と成果
13,14 アスペクト、テンス 研究と成果 15 助詞の歴史的変遷 「が」「の」の用法 16 係り結び 崩壊の理由 17 活用形式の変遷 変化した理由 18 固有名詞、指示語 意味とは何か 19 上位語、下位語 自然分類と人為分類 20 反義語 「暑い」「寒い」は反義語か 21 多義語 意味の多様性 22 シソーラス 語の分類の可能性 23 意味変化の型 変化の方向性 24 日常語の意味 日付と日数の違い 25 色彩語彙 語彙の序列性 26 温度語彙 「涼しい」「ぬるい」の分析 27、28 空間の語彙 「高い」と「広い」	10,11	室町末期の音声	研究と成果
15     助詞の歴史的変遷     「が」「の」の用法       16     係り結び     崩壊の理由       17     活用形式の変遷     変化した理由       18     固有名詞、指示語     意味とは何か       19     上位語、下位語     自然分類と人為分類       20     反義語     「暑い」「寒い」は反義語か       21     多義語     意味の多様性       22     シソーラス     語の分類の可能性       23     意味変化の型     変化の方向性       24     日常語の意味     日付と日数の違い       25     色彩語彙     語彙の序列性       26     温度語彙     「涼しい」「ぬるい」の分析       27、28     空間の語彙	12	ボイス	体系として考える
16       係り結び       崩壊の理由         17       活用形式の変遷       変化した理由         18       固有名詞、指示語       意味とは何か         19       上位語、下位語       自然分類と人為分類         20       反義語       「暑い」「寒い」は反義語か         21       多義語       意味の多様性         22       シソーラス       語の分類の可能性         23       意味変化の型       変化の方向性         24       日常語の意味       日付と日数の違い         25       色彩語彙       語彙の序列性         26       温度語彙       「涼しい」「ぬるい」の分析         27、28       空間の語彙       「高い」と「広い」	13, 14	アスペクト、テンス	研究と成果
17       活用形式の変遷       変化した理由         18       固有名詞、指示語       意味とは何か         19       上位語、下位語       自然分類と人為分類         20       反義語       「暑い」「寒い」は反義語か         21       多義語       意味の多様性         22       シソーラス       語の分類の可能性         23       意味変化の型       変化の方向性         24       日常語の意味       日付と日数の違い         25       色彩語彙       語彙の序列性         26       温度語彙       「涼しい」「ぬるい」の分析         27、28       空間の語彙       「高い」と「広い」	15	助詞の歴史的変遷	「が」「の」の用法
18     固有名詞、指示語     意味とは何か       19     上位語、下位語     自然分類と人為分類       20     反義語     「暑い」「寒い」は反義語か       21     多義語     意味の多様性       22     シソーラス     語の分類の可能性       23     意味変化の型     変化の方向性       24     日常語の意味     日付と日数の違い       25     色彩語彙     語彙の序列性       26     温度語彙     「涼しい」「ぬるい」の分析       27、28     空間の語彙	16	係り結び	崩壊の理由
19       上位語、下位語       自然分類と人為分類         20       反義語       「暑い」「寒い」は反義語か         21       多義語       意味の多様性         22       シソーラス       語の分類の可能性         23       意味変化の型       変化の方向性         24       日常語の意味       日付と日数の違い         25       色彩語彙       語彙の序列性         26       温度語彙       「涼しい」「ぬるい」の分析         27、28       空間の語彙       「高い」と「広い」	17	活用形式の変遷	変化した理由
20       反義語       「暑い」「寒い」は反義語か         21       多義語       意味の多様性         22       シソーラス       語の分類の可能性         23       意味変化の型       変化の方向性         24       日常語の意味       日付と日数の違い         25       色彩語彙       語彙の序列性         26       温度語彙       「涼しい」「ぬるい」の分析         27、28       空間の語彙       「高い」と「広い」	18	固有名詞、指示語	意味とは何か
21       多義語       意味の多様性         22       シソーラス       語の分類の可能性         23       意味変化の型       変化の方向性         24       日常語の意味       日付と日数の違い         25       色彩語彙       語彙の序列性         26       温度語彙       「涼しい」「ぬるい」の分析         27、28       空間の語彙       「高い」と「広い」	19	上位語、下位語	自然分類と人為分類
22       シソーラス       語の分類の可能性         23       意味変化の型       変化の方向性         24       日常語の意味       日付と日数の違い         25       色彩語彙       語彙の序列性         26       温度語彙       「涼しい」「ぬるい」の分析         27、28       空間の語彙       「高い」と「広い」	20	反義語	「暑い」「寒い」は反義語か
23       意味変化の型       変化の方向性         24       日常語の意味       日付と日数の違い         25       色彩語彙       語彙の序列性         26       温度語彙       「涼しい」「ぬるい」の分析         27、28       空間の語彙       「高い」と「広い」	21	多義語	意味の多様性
24       日常語の意味       日付と日数の違い         25       色彩語彙       語彙の序列性         26       温度語彙       「涼しい」「ぬるい」の分析         27、28       空間の語彙       「高い」と「広い」	22	シソーラス	語の分類の可能性
25色彩語彙語彙の序列性26温度語彙「涼しい」「ぬるい」の分析27、28空間の語彙「高い」と「広い」	23	意味変化の型	変化の方向性
26温度語彙「涼しい」「ぬるい」の分析27、28空間の語彙「高い」と「広い」	24	日常語の意味	日付と日数の違い
27、28 空間の語彙 「高い」と「広い」	25	色彩語彙	語彙の序列性
	26	温度語彙	「涼しい」「ぬるい」の分析
29,30 物体の語彙 「長い」「大きい」	27, 28	空間の語彙	「高い」と「広い」
	29, 30	物体の語彙	「長い」「大きい」

# Ⅴ 使用テキスト・教材等

プリント配布

## VI 参考書·参考資料

授業時に指示

## Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100	70	20		10	
音声の理解	0	0		0	
文法の理解	0	0		0	
意味の理解	0	0		0	

## Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

復習を十分すること

## Ⅳ その他 (履修上の注意、前提条件等)

授業で疑問があれば質問すること

攻

Ш

V

日本古典芸能論		4	国	1	平井修成
授 業 科 目 名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員

#### I 主題

忠臣蔵は、日本と日本人を語る上での大きなキーワードとなっている。歌舞伎・文楽を中心に、日本文化の中 の忠臣蔵を多方面から考え、理解し、これを通じ「日本」を語ることができるようになることを目標とする。

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.『仮名手本忠臣蔵』を知る。
- 2.赤穂事件の史実、その背景、その影響を知る。
- 3.所謂「忠臣蔵もの」の多彩な展開を知り、日本文化・日本の国民性との関わりを理解する。

#### Ⅲ 授業の概要

次のような項目について学習・研究する。

#### Ⅳ 授業計画と内容

項 目

1~5. 『仮名手本忠臣蔵』を知る

6~7. 史実としての赤穂事件

8~10. 近世に於ける赤穂事件の評価

11~13. 赤穂事件の思想的背景

14~17. 『仮名手本忠臣蔵』の先行作品

18~20. 『仮名手本忠臣蔵』演出の変遷

21~24. 『仮名手本忠臣蔵』と『東海道四谷怪談』

25~27. 映画化された忠臣蔵

28~29. ジャパノロジスト達にとっての忠臣蔵

内 容

『仮名手本忠臣蔵』の梗概を知ると共に、重要と思われ る場面について、詞章を読むと共に、文楽及び歌舞伎 の舞台をビデオ鑑賞する。『仮名手本忠臣蔵』が、単に 忠義と仇討ちの物語ではないことを理解して欲しい。

本当は何があったのかを確認する。

忠臣と称えるものから暴徒として貶すものまで、当時の 資料を読む。

赤穂浪士の仇討ちに大きな影響を与えたと思われる山 鹿素行の思想を中心に、近世に並立した忠義という概 念の多様な姿を知る。

名作『仮名手本忠臣蔵』誕生に至る過程を探る。それ は人々が、忠臣蔵の主題をどう創り上げていったかを理 解することでもある。

「花献上」の場は、なぜ上演されなくなったのか。「山崎 街道」は、なぜ見取り狂言になるほどに人気が出たの か。『仮名手本忠臣蔵』の進化と変化を辿る。

裏忠臣蔵、不忠臣蔵とも言うべき主題を持つ『東海道四 谷怪談』。この作品が登場した意味を、時代との関わり、 『仮名手本忠臣蔵』に与えた影響などを中心に考える。 映画というメディア、近代という時代による、忠臣蔵の変

質を見る。

主に欧米の日本研究者達は、日本人の特質を語る時 に、しばしば忠臣蔵を象徴的に扱ってきた。そこに生じ た理解と誤解を、これまでの学習を踏まえて評価する。

30. まとめ

#### ▼ 使用テキスト・教材等

適宜プリント資料を配付する。

## Ⅵ 参考書・参考資料

授業中に適宜指示する。また、自身で探し出す努力を期待する。

#### Ⅵ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	믑		( )
配点比率(%) 合計 100	50		30	20	
『仮名手本忠臣蔵』の理解	0			0	
赤穂事件と背景・影響の理解	0		0	0	
日本文化・国民性と忠臣蔵との関連の	0		0	0	
理解					

## Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

『仮名手本忠臣蔵』の詞章を読むと共に、何であれ「忠臣蔵」に関する情報に留意し、コピーをとるなどする。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

1~5. 『仮名手本忠臣蔵』を知る は講義形式で、その後は演習形式で行う。

П

保

攻

科

静岡の文化		2	国	1	繁原幸子
授 業 科 目 名	単 位 必修	立数 選択	学科	年次	担当教員

#### I 主題

静岡県はそれぞれの地域で様々な文化が伝承され、その地域を特徴付けている。これらの事例を他地域の文化と比較しながら民俗学的考察で読みとくことを学ぶ。

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.静岡各地の民俗文化に対する知識が深まる。
- 2.様々な民俗文化を知ることで、静岡の文化に対しての理解が深まる。
- 3.静岡の民俗文化が現在どう生かされているか考察できるようになる。

#### Ⅲ 授業の概要

フイールドワークによる具体例のパワーポイントやビデオやDVDあるいは実物を見て静岡の文化に対する理解を深める。

## Ⅳ 授業計画と内容

項目

内 容

1. オリエンテーション

授業展開と民俗文化の概説

2. 津波などの災害と民俗

静岡の災害がどう伝承されたか考察する。

3. 静岡の衣服

衣服の呪術性を考える。

4. 山間地の雑穀文化

焼畑文化と雑穀の今昔を考察する。

5. 山間地の狩猟文化

今静岡の山間地で何が起きているかを学ぶ。

6. 海の文化(1)

漁師の生活や信仰の今昔を考察する。

7. 海の文化(2)

漁師町の食生活・衣生活を知る。

8. 静岡の年中行事(1)

年中行事の意味とその成り立ちを知る。

9. 静岡の年中行事(2

静岡と他地域の年中行事を比較する。

10. 静岡の年中行事(2)

年中行事の変容と新しく加わった年中行事を考察する。

11. 静岡の人生儀礼(1)

結婚と出産・育児の今昔を考察する。

12. 静岡の人生儀礼(2)

年祝いと葬式の今昔を考察する。

13. 祭り文化(1)

伝統の祭りの変容と問題を考える。

14. 祭り文化(2)

各地の祭りと静岡の祭りを比較する。

15. まとめ

今までの授業から静岡の文化を考察する。

定期試験

筆記試験(論述式)

## Ⅴ 使用テキスト・教材等

特に定めない。その都度教材プリントを配布する。

#### VI 参考書·参考資料

授業時紹介

## Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他	
学習項目		レポート	믑		( )	
配点比率(%) 合計 100				20		
静岡の文化に対する基礎知識	0	0		0		
静岡の文化に対する関心の深化	0	0		0		
静岡の文化に対する考察力	0	0				

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

新聞記事をよく読むこと。常に静岡の文化に関心を持ち、注目しておくこと。

## 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

日常生活に近い事例もあるので、発言など積極的な参加を求める。

攻

V

言語文化論		4	国	1	小野田貴夫	
授業科目名	必修	選択	学科	年次	担当教員	
	単位	立数				

#### I 主題

言語文化に関する基礎理論の理解からはじめて、実際の言語文化に関する事象を分析できるようになり、そのうちに含まれる現実的な問題を解決する方法を検討する。

## Ⅱ 授業の到達目標

- 1.言語と文化の関係についての基本的な理論が説明できる。
- 2. 日常の事象を、言語文化論的な視点から、解説できるようになる。
- 3. 日常の問題について、言語文化論的な視点から解決方法を提示する。

#### Ⅲ 授業の概要

言語文化に関する基礎理論を、それぞれの回で取り上げるテキストにそって解説する。さらに、その理論を使って実際の事象について議論し、そこに潜在する課題の解決方法を検討する。

## Ⅳ 授業計画と内容

項目

内容

1-2. 認知と言語の関係について 『認知言語学基礎から最前線へ』について 3-4. 言語と文化の関係について 『ことばと思考』『レキシコンの構築』について

5-6. 言葉の権力について 『話すということ』について 7-8. 言葉と物の歴史性について 『言葉と物』について

9-10. 価値体としての言語について 『言語にとって美とはなにか』について

11-12.ディスコースと欲望について 『性の歴史 I』について 13-14.ゲームとしての言語について 『哲学探究』について

15-16.言葉と階級について 『"教育"の社会学理論』について

17-18.反資本としての言語について 『ピダハン』について 19-20.言葉と配慮について 『ポライトネス』について

21-22.日本語の中の私について 『日本人の〈わたし〉を求めて―比較文化論のすすめ』について

23-24.日本語と物事の感じ方について『日本語には敬語があって主語がない』について

25-26.言葉と思いやりについて 『ヒトはなぜ協力するのか』について 27-28.言葉の誘導について 『べてるの家の「当事者研究」』について

29-30.まとめ

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

資料を配布する

## Ⅵ 参考書・参考資料

日本語には敬語があって主語がない金谷武洋話すということP.ブルデュー言葉と物M.フーコー

VII

## 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100	75			25	
言語文化に関する基礎理論が説明でき	0			0	
る					
現実の場面が分析できる	0			0	
解決方法が提示できる	0			0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

各回に配布する資料の再読と課題の実施。

攻

П

保

授業科目名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員
日本文化論		4	H	1	日比野秀男

## I 主題

日本文化の歴史的流れと特色を理解する。

## Ⅱ 授業の到達目標

- 1.日本美術史上の重要な作品を取り上げ、特色や独自性などについて理解を深める
- 2.日本の芸術作品に影響を与えた仏教や諸外国文化についても理解を深める
- 3.美術、思想、文学など相互の関係について理解を深める

#### Ⅲ 授業の概要

テキストを使用し、解説により理解し図版によってより具体的に鑑賞することとします。 さらにビデオやパワーポイントによって一層作品鑑賞を深めます

# Ⅳ 授業計画と内容

項目

オリエンテーション

2. 先史美術

1.

3-4. 飛鳥時代の文化と美術

5. 白鳳時代の文化と美術

6-7. 天平時代の文化と美術

8-9. 平安時代前期の美術と文化

10-11. 平安中期の美術

12-13. 平安時代の仏教

14-15. 平安時代後期の美術

16-17. 鎌倉時代の仏教と仏像

18-19. 室町時代の文化と水墨画

20-23. 桃山・江戸時代前期の文化と美術

24-27. 江戸時代中・後期の文化と美術

28. 幕末・明治の文化と美術

29-30. 近現代の文化と美術

内 容

年間授業計画、日本文化の理解について

仏教が伝わる以前の先史美術

仏教公伝、法隆寺の美術と文化

興福寺の仏頭など

薬師寺、唐招提寺の美術と文化

神護寺・東寺などの美術と文化

浄土信仰と平等院の美術 平安密教から浄土信仰へ

仏画の世界

鎌倉新仏教について、運慶と快慶

禅宗庭園と思想、雪舟と水墨画家

襖絵と屛風絵

宗達・光琳、文人画と明清思想、浮世絵と庶民文化

新しい西洋文化への憧れ

国際化と美術

# Ⅴ 使用テキスト・教材等

すぐわかる日本の美術(改訂版)

田中日佐夫 東京美術

#### VI 参考書·参考資料

授業中に指示する。

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	뮵		( )
配点比率(%) 合計 100	60	20		20	
日本美術について特色、独自性の理解	0	0		0	
仏教、外国文化との影響の理解	0	0		0	
美術、思想、文学相互の理解	0	0		0	

## Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

授業に臨む前にテキストの内容を理解する。 積極的に展覧会や社寺見学をする。休業に関係ない私語は厳禁

## 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

作品を理解するために積極的に自分の考えを持って参加してください。

攻

V

日本民俗文化論		4	国	2	吉川祐子
授業科目名	単位 必修	立 数 選択	学科	年次	担当教員

#### I 主題

日本の民俗文化の本質をとらえ、日本人を知る。

# 授業の到達目標

- 1.日本の民俗文化の本質がとらえられるようになる。
- 2.学んだ民俗文化と日常生活を比較して考察できるようになる。
- 3.学んだ知識を目常生活に活かせるようになる。

## Ⅲ 授業の概要

テキストや映像資料から、日本の民俗文化の本質がどこにあるのかを考察する。

## Ⅳ 授業計画と内容

項 内 Ħ オリエンテーション 1 年間授業計画、「民俗文化」の定義、年間個人目標の決定 子どもの誕生 男性が恐れた出産、そのわけを考える。 子ども組の行事 遊び組と行事組、子ども会との違いを学ぶ。 3 4-5 節供と凧揚げ 人の成長と農耕との関係を考える。世界比較をする。 昔話と子育て 今最も人気のある子育て文化「昔話」を考える。 6 7-8 瀬名地内を歩いて民俗に触れ、レポートにまとめる。 フィールド調査と発表 子ども組と子供会、若者組と村組織、家族と隠居を考える。 9 年齢階梯制度 10 伊勢神宮と民俗 伊勢神宮の遷宮に関与する人びとの民俗を知る。 11 七夕と盆行事 岐阜の初七夕行事から長男の立場と子育てを学ぶ。 12-13 盆行事と先祖供養 遠州に残る盆行事を知り、その背景の農耕文化を考える。 祇園祭の歴史と民俗 全国の祇園行事本家である京の祇園行事を学ぶ。 お茶の歴史を知って、お茶のある暮らしをより深く知る。 15 喫茶の歴史と民俗 前期レポート「家の盆、わたしの盆」の発表をする。 16 レポート発表と討論 17 火の役割と民俗 日本民俗にとっての「火」とは何かを学ぶ。 18 富士山とかぐや姫 かぐや姫物語の発生と富士山信仰を考える。 19 柳田国男の民俗学 民俗学の成立を学ぶ。 20 秦氏と徐福 徐福伝承から、中国と日本の歴史と民俗を考える。 21 京文化と舞妓 舞妓の歴史から京文化を探る 22 紀伊山地の霊場と信仰 修験道と女性信仰について学び、日本の古層信仰を考える。 23-24 安倍晴明と庶民信仰 安倍晴明の実像を知り、様々な民俗文化との関わりを知る。 正月行事 正月行事の内容とその意義を考える。 25 26 寺院の正月行事 新年行事の田遊びや田楽を知り、その意義を考える。 2.7 レポート発表と討論 後期レポート「家の正月、私の正月」の発表をする。 典型的な行事を取り上げ、小正月の意義を考える。

28 小正月行事

29 日本人の起源

日本民俗の本質

## ▼ 使用テキスト・教材等

昔話から"昔っこ"へ

吉川祐子 岩田書院

年間授業から日本民俗の本質を確認する。

## VI 参考書·参考資料

新民俗学を学ぶ 現代を知るために

八木诱 昭和堂 2013

日本人はどこからやってきたのか、古代にさかのぼって知る。

#### Ⅵ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	믑		( )
配点比率(%) 合計 100%	50	20		30	
日本の民俗文化の本質をとらえる	0	0		0	
民俗文化と日常生活の比較	0	0		0	
日常生活に活かす		0		0	

## Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

ニュース、新聞報道(特に文化報道)に気を配る。

#### 以 その他 (履修上の注意、前提条件等)

履修上の注意:授業に関係のない私語は慎むこと。 たとえ辞書使用であっても、携帯電話等の授業時間使用は禁止する。

攻

 $\prod$ 

П

保

攻

Ħ

日中比較文学論		4	国	1	繁原央
授業科目名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員

#### I 主題

日本文学に中国文学がどのように影響を与えたか、継子譚と対偶文学を素材に日中比較文学について考える。

# Ⅱ 授業の到達目標

- 1.文学作品の読解ができること
- 2.日本文学と中国文学の知識を得ること
- 3.日本と中国の文学の比較考察ができること

#### Ⅲ 授業の概要

前期は日本と中国の継子譚をとりあげ、関連する作品を比較文学的に考えていく。シンデレラ譚が有名だが、最古のシンデレラ型の記録は中国唐代の「酉陽雑俎」にあり、また日本には継子譚が数多く語られている。それらの背景を考えてみたい。後期は対偶文学を主として中国の詩と小説から考えてゆく。対偶というとらえ方をすることで、文学の発想の仕方にまで踏み込んで比較考察ができることを示したい。

## Ⅳ 授業計画と内容

項 目・内 容

1、オリエンテーション	本講義の概要を説明する	16、対偶文学とは	対偶文学についての概説
2、比較文学とは	比較文学の方法について	17、中国における対偶的な	もの 対聯など
3、シンデレラ譚	継子話の世界的広がり	18、律詩・排律の対偶	近体詩の修辞技法
4、落窪物語を読む	古本住吉物語とともに平安時代	19、文心雕龍の理論	対句の仕方の分析
	の継子譚を知る		
5、室町物語の継子譚1	室町物語から継子譚を抜き出す	20、聯というとらえ方 詩	F経や万葉集から対偶表現をみつける
6、室町物語の継子譚 2	分担して内容を紹介しあう	21、中国の小説について	志怪から伝奇へ
7、神道集「二所権現事」	本地物の中の継子譚	22、中唐小説を読む	枕中記を紹介
8、日本昔話の継子譚1	日本の昔話中の継子譚を探し出す	23、李娃伝を読む	訳文で読みあらすじを知る
9、日本昔話の継子譚 2	分担して内容を紹介しあう	24、李娃伝の分析	対偶的表現を考える
10、シッディ・クール第五話	モンゴルの語り物の中の継子譚	25、杜子春伝を読む	あらすじを知る
11、七賢人物語	千一夜物語の源流の発端	26、杜子春伝の分析	対偶的発想を考える
12、枠物語とは何か	アジアに広がる連環譚	27、長恨歌を読む	長恨歌の本文と訳から内容を知る
13、中国の民間故事	中国民間故事(神話、	28、長恨歌の分析	対偶的な思弁性に注目
	伝説、昔話)研究について		
14、中国民間故事中の継子譚	親孝行譚と継子譚の関係	29、三夢記を読む	三つの夢の話の思弁性
15、継子譚とは何か	継子譚のまとめ	30、前赤壁賦を読む	思想的対偶表現を知る

#### ▼ 使用テキスト・教材等

対偶文学論 繁原 央 汲古書院

## Ⅵ 参考書・参考資料

日本昔話大成関 敬吾角川書店日本昔話通観稲田浩二他同朋舎シッディ・クール西脇隆夫溪水社

## Ⅷ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100		30	50	20	
文学作品の読解		0	0	0	
作品の知識		0	0		
比較考察内容			0		

2013

## Ⅷ 授業時間外の学習 (予習・復習等)

復習として、講義と関連する作品を調べ、レポートにつなげてほしい。

 $\prod$ 

V

文化人類学		4	国	1	繁原央	
授業科目名	必修	選択	子科	年次	担当教員	
	単位	立 数	보고 기	学科 年次		

#### I 主題

文化人類学の成果を基礎に人間の文化的側面について学ぶ。今年は「血縁と婚姻」をテーマとする。

# Ⅱ 授業の到達目標

- 1.文化人類学の研究方法(フィールドワーク)を理解できること
- 2.人間の文化について学び、人類文化とは何か知ること
- 3.世界の民族の多面的な文化を知り、人の生き方について考察できること

## Ⅲ 授業の概要

文化人類学の概略を基本に人類の文化現象を紹介する。人間は血のつながりをなぜ重んじるのか、また婚姻はどのように行われてきたか。これらに関する現在日本の変化は激しいものがあるが、伝統的なあり方を知ることによって、これからの血縁と婚姻、あるいは人間関係について考える素材を提供したい。具体的な例は中国を中心とするアジアが多くなる。

#### Ⅳ 授業計画と内容

項 目・内 容

1、オリエンテーション	文化について	16、婚姻	結婚の意味を人類学はどう考えるか
2、文化について1、農耕	河姆渡遺跡の紹介	17、歌垣	男女の出会いの場として
3、文化について2、遊牧	モンゴルの遊牧生活の紹介	18、特殊な婚姻 1	優先婚について
4、文化人類学の歴史1	ダーウィンの進化論の影響	19、特殊な婚姻 2	トン族のイトコ婚
5、文化人類学の歴史 2	フレーザーの理論「金枝篇」	20、婚姻理論 1	レヴィ-ストロース「親族の基本構造」
			を読む
6、文化人類学の方法1	フィールドワークの方法について	21、婚姻理論 2	「親族の基本構造」を読む
7、文化人類学の方法2	参与観察の理論	22、贈与論	ポトラッチなど
8、マリノフスキーの著書	「西太平洋の遠洋航海者」の	23、死後結婚	死んだ人を結婚させるということ
	フレーザーの序文を読む		
9、クラ交換について1	マリノフスキーを読む	24、葬制の諸相	さまざまな 葬式の仕方
10、クラ交換について2	マリノフスキーを読む	25、両墓制	二つの墓のある村
11、家族とは	人類学上から見た家族	26、祖霊信仰	祖先を祀る意味
12、血縁の文化人類学	血縁について文化人類学はどう	27、風水	地理学との接点
	捉えるか		
13、父系	東アジアにおける系譜の意味	28、アミニズム・トーテミズ	原始的宗教の存在
	一孔家族譜を例に	ム・シャーマニズム	
14、母系	母系社会とはどういうものか	29、血縁を超えて成人式、	秘密結社、擬制的人間関係
	―モソ人の生活		
15、前期テスト	前期のまとめとして	30、後期テスト	後期のまとめとして

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

よくわかる文化人類学 第2版 綾部恒男他編 ミネルヴァ書房 2010

## Ⅵ 参考書・参考資料

文化人類学を学ぶ人のために米山俊直他世界思想社文化人類学の名著 50綾部恒雄編平凡社文化人類学事典日本文化人類学会丸善

## Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100	50	30		20	
文化人類学についての理解	0	0		0	
文化についての考察	0				
民族文化についての知識	0	0			

## Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

専門用語について復習しておくこと

攻

 $\prod$ 

П

保

攻

授業科目名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担当教員
国語科教育研究		4	国	1	大塚浩

## I 主題

この授業では、中等学校教育における国語科の授業を行うには、どのような理論研究が必要となるのか、また、 どのような指導法が必要となるのかについて考察する。(中学校国語一種免許・必修科目)

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.国語科教育学の構造を理解し、「国語科」の指導が出来るようになる。
- 2.国語教科書の構成について学び、国語教材の研究・考察ができる。
- 3.さらに、国語教材研究の知識を利用して、国語授業研究へと応用できるようになる。

#### Ⅲ 授業の概要

この授業は、国語科教育研究について理論と実践の両面から考究する。

#### Ⅳ 授業計画と内容

項目

1-2. 言語とは

3-4. 国語教育学の構造

5-6. 言語指導

7-8. 国語教科書教材論 I

9-10. 作家作品論 I

11-12. 国語教材研究論 I

13-14. 国語科教育実践論 I

15-16. 国語科教育指導論 I

17-18. 国語教科書教材論Ⅱ

19-20. 作家作品論Ⅱ

21-22. 国語教材研究論Ⅱ

23-24. 国語科教育実践論Ⅱ

25-26. 国語科教育指導論Ⅱ

27-28. 国語科教育授業論 I

29-30. 国語科教育授業論Ⅱ

31. 試験

# 内 容

イントロダクション+言語について

国語教育学の構造について

国語科における言語指導について

国語教科書教材の基礎論について

作家作品論について

国語教材研究の基礎について

国語科教育実践論について

国語科教育指導論について

国語教科書教材論•第Ⅱ段階

作家作品論•第2段階

国語教材研究論・第Ⅱ段階

国語科教育実践論・第Ⅱ段階

国語科教育指導論•第Ⅱ段階

国語科教育授業論について

国語科教育授業論・第Ⅱ段階

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

講義において、適宜指示する。

## VI 参考書·参考資料

講義において、適宜指示する。

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他	
学習項目		レポート	品		( )	
配点比率(%) 合計 100	50	15	15	20		
国語科教育学の構造の理解	0			0		
国語教材の研究及び実践、発表	0	0	0	0		
国語科の実践授業 授業研究への応用	$\circ$	0	0			

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

講義で使用する文学作品を、事前に読んでおくこと。

## 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

授業に関係のない私語は絶対にしないこと、従わない場合には退席を命じる。

Ш

V

授 業 科 目 名	単 位 必修	立数 選択	学科	年次	担当教員
修了論文	4		围	2	中村国男

## I 主題

各自が自身の興味に即してテーマを設定し、説得力ある答えを発見していく。

## Ⅱ 授業の到達目標

- 1.対象とする作品を、丁寧に読み込むことができる。(文学への関心の深化)
- 2.研究史を把握し、幅広く論文・資料を利用できる。(文学研究の方法に習熟)
- 3.主張に向け、筋道を立てて論述することができる。(文章の論理的構成力)

## Ⅲ 授業の概要

4 月末に本題目を決定。前期末に論文の構成・あらすじを確定する。夏休み中に論文を作成する。枚数は四百字詰め原稿用紙換算で 30 枚以上。9 月上旬に提出。口頭試問を実施する。一斉授業は行わず、原則として自力で問題を解決していくこととし、進行の節目に合わせて面接指導を行う。さらに各自の感じた課題に応じて適宜個人指導を実施する。

# Ⅳ 授業計画と内容

1. 2. 項目

研究テーマの決定

題目の決定

3~ 6. 論文の構成・あらすじの確定

7~15. 下書き作成

16~17. 論文提出

18. 口頭試問

19~30. 修了論文発表会へ

内 容

1年次に決めたものを再確認

正式の文言として確定する

仮説、目次、要旨を作成 実践 適宜面接指導を実施

目次を付け、装丁を確認

不十分であった点をチェック

学位授与へ向けて

## Ⅴ 使用テキスト・教材等

各自のテーマに応じて用意すること

#### VI 参考書·参考資料

必要に応じ指示する

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	成績評価方法 試験 小テスト・小 成果発表		成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100			80	20	
文学への関心の深化			0	0	
文学研究の方法に習熟			0		
文章の論理的構成力			0		

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

自力での地道な取り組みと同時に、面接前には進捗状況を整理しておくこと。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

教員との相談を密にすること。

攻

П

保

 $\prod$ 

授業科目名		立数	学科	年次	担当教員
D	必修	選択			
修了論文	4		国	2	瀬戸宏太
	'		_	_	

#### I 主題

各自が自身の興味に即してテーマを設定し、説得力のある答えを発見していく。

## Ⅱ 授業の到達目標

- 1.対象とする作品を、丁寧に読み込むことができる。(文学への関心の深化)
- 2.研究史を把握し、幅広く論文・資料を利用できる。(文学研究の方法に習熟)
- 3.主張に向け、筋道を立てて論述することができる。(文章の論理的構成力)

#### Ⅲ 授業の概要

原則として自力で問題を解決していくわけだが、指導は、その進行の節目にあわせて、次の三つを基本に据える。 すなわち、テーマ決定前の作品読解の程度のチェック、先行論文など当該テーマに関する研究史把握のサポート、および論文提出後の口頭試問である。 中でも口頭試問は緊張感を持って臨み、積極的に批判を受け、これに対する答えを探すことで自説に磨きをかけ、修了論文発表会へとつなげてほしいと思う。

## Ⅳ 授業計画と内容

目安として期待される進行状況を以下に示す。なお、193 については、既に一年次から取り組んでいることを前提とする。

項目内容

1. 扱う作品の決定・再読 自分が関心を持てる作品を見つけ、読み直す。

2. テーマの決定 どのように論じていくのか言葉にする。

研究史の把握
 オーマンに関して既に論じられていることを学ぶ。
 自分の考え方の長所
 自分が新たに言えることは何かを見定める。

8-15. 下書きと推敲 説得力を持たせるための試行錯誤。

16-17. 論文提出 自分の論文をしつかり把握し、要約を付ける。

18. 口頭試問 不十分であった点をチェックする。

19-30. 修了論文発表会へ 学位授与へ向けて

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

各自のテーマに即して用意すること。

## VI 参考書·参考資料

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100		20	45	35	
文学への関心の深化			0	0	
文学研究の方法に習熟		0	0	0	
文章の論理的構成力			0		

## Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

自力での地道な取り組みと同時に、面接前には進捗状況を整理しておくこと。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

論文の出来が不本意だった場合は、提出後の面接で補うこと。

攻

П

V

授 業 科 目 名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担当教員
修了論文	4		国	2	小野田貴夫

## I 主題

専攻科における学修の成果を論文にまとめる。

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.自身の関心に即して先行研究を踏まえながらテーマを設定する。
- 2.テーマに応じた資料収集、調査、読解、分析等の一連の研究作業を行う。
- 3.研究の成果を論文の形式にそって書く。

#### Ⅲ 授業の概要

言語学、社会言語学、日本語学、こどもの文学、宮澤賢治等に関するテーマを扱い、テーマの設定から論文の完成までの手順を解説、指導する。

## Ⅳ 授業計画と内容

項目

1-2. 卒業論文の見直し

3-4. 「はじめに(テーマの設定)」

5-6. 「調査方法・結果と考察・まとめ」

7-8. テーマの設定

9-10. 主題・問題設定とは

11-12. 先行研究との関係

13-14. 調査方法

15-16. 文献調査について

17-18. インタビュー調査、質問紙調査

19-20. 結果と考察

21-22. 事実の関連付け(体系化)

23-24. 分析方法

25-26. まとめ(論文の完成)

27-28. 校正と製本

29-30. 口頭発表

内 容

不足の確認と改善の方法

関心と先行研究との関係について

論文作成の具体的な手順について

問題設定の可能性について

先行研究を踏まえた問題の立て方

先行研究の調べ方、載せ方

様々な調べ方・手段について

文献、論文の検索/文献による調査

面接の方法/質問紙の作成方法 事実の扱い方と関連付け

事実のまとめかた・示し方

印象と客観的な根拠の示し方(分析)

全体的な構成と確認

製本する

論文の内容を要約し、発表する

## Ⅴ 使用テキスト・教材等

資料を配布する

# VI 参考書·参考資料

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100		15	75	10	
テーマが設定できる		0		0	
自身の研究作業及び進捗状況を解説		0		0	
できる					
論文が作成できる			0	0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

各回に配布する資料の再読と課題の実施。